

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
互いの人権を尊重し、支え合える笑顔の絶えない人情味あられる小島のまちに	えだ高全 明て者 るの・障 く人々 かがい かに互 らに者 せを ん支	高齢者・障がい児者	高齢者の居場所づくり	高齢者の集いの場が少ない。	集いの場の設定（校区、町内単位） 日頃から声掛け、見守り。外で集まれる環境を整える（方法を考える）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症について、理解を深めるための学習会開催</li> <li>・ふれあいサロンへの参加促し</li> <li>・課題解決に向けた関係機関との連携および情報の共有</li> <li>・我がごと丸ごとを見据えた思いやりのある環境づくりの構築</li> <li>・あいさつ運動への呼びかけ、健康情報の提供</li> <li>・家族、関係機関を含めた認知症高齢者の情報共有</li> </ul>
			特徴がある高齢者への関わり	認知症高齢者の増加	家族・包括支援センター（ささえりあ）との連携による見守り強化を図る。	
				独居高齢者の増加に伴う孤独死が心配	人とのつながりを創出し、情報の共有を図り、誰もが支え合う体制を構築する。孤立化しない様、ふれ合いサロン、行事等へ積極的な参加を促して行く。	
				声をあげることが難しい高齢者	小さな声にも耳を傾け、支援体制、孤立を防ぐために地域行事に参加する様に促す。	
			高齢者の見守りや安全	運動不足な高齢者。	定期的な運動、体操ができる会をつくる。	
				支援を求めている高齢者の早期発見、早期の対応	市などの公的機関と連携する見守等の体制づくり。多様な課題に対し、地域で解決出来ないものは、行政機関・福祉関係等へつないで支援を求める。	
				高齢者の見守りや安全	定期的な運動、体操ができる会をつくる。	
			実態把握について	高齢者・障がい児・者の実態把握が出来ていない。	行政、関係機関等への相談をしながら連携強化を図っていく。	
	子どもは地域の宝、健全育成に向けた地域一体とした環境づくり	子ども・子育て	地域とのつながり	子育て世帯の集まる機会の少なさ。	地域で交流の場を作り、ネットワーク作りやサロン・イベント等情報交換をする。子育て世代への情報提供を行い、サークルの紹介や育児のアドバイス等を行っていく。	
				子ども達との関係が少ない。	挨拶運動、見守り活動などで子ども達との信頼関係を作る。	
				子育て支援者同士の情報共有・校区内の子ども達の日頃の様子、実情の支援	役所・学校・保育園・民協で編成で「子育てネットワーク会議」を年1回開催。更に学校・PTAとの交流や学校行事を通して、積極的に情報共有を図っていく。	
				地域の人達と子ども達の間でハッキリとした大きな声で「あいさつ」が出来ていない。	登下校時の見守り、あいさつ運動を行う。	
				子どもが参加するイベントがなくなり、どこの家の子ともわからない時がある。	子どもが参加するイベントを行う。	
				世代間交流の機会が少ない（新興住宅地は特に）。	登下校時の見守り、あいさつ運動、日頃からの声掛けが必要	
				子ども達が小島町の良さを体感する場が少ない。	山と川と海という自然環境の中で安全に遊べる場の創出。	
				コロナの影響で子ども達のボランティア活動の機会がなくなっている。	コロナの状況が改善された際に実施する行事・イベントの必要性と実行性の確認	
	子どもの安全	子どもの遊び場が少ない。危険箇所（道路で遊んでいる）が多い。	要所での見守り。			
	自助、共助を軸とした防災力のあるまちづくり	災害・防災	災害への備えと対応	要援護者の把握と避難体制の構築	要援護者を対象とした避難訓練を行い、問題点・課題点を出し、経験を積んでいく。	
					要援護者ファイルに記載されている避難所が実際の避難所と相違ないよう情報の徹底。高齢、一人暮らし、身障者等要援護者の掘り起こしを図る。農区、消防等若手後継者との情報を共有し、援護支援体制の構築。	
					高齢者世帯、要援護者の情報を共有し、迅速な対応が出来る体制を整える。	
					災害時要援護者、高齢者の方達に対し、事前的に避難の呼びかけを徹底して行う。	
					避難所と避難経路について、再周知、再確認し、住民の実態把握、支援体制の構築、および訓練に対する参加要請（日頃からの声掛け等が必要）。	
				住民の防災意識の向上を如何に図るか。	自分の命は自分で守る意識づけや米タイムラインの更なる周知を図る。 避難に関する情報が発令されたら、情報を把握し早期に避難行動に移す。	
	各家庭に設置が義務付けられている火災報知器（消火器）の必要性	校区防災の基盤として、各避難所での運営体制の強化。	火災報知器が機能するか（消火器の使用期限の点検を）回覧板を通し徹底した呼びかけを行う。			
		各避難所間での情報の共有や住民の安全確認等を効率よく取り合うためネットワークの構築を図る。				
自ら考え、自ら役割を自覚できる、互	地域全体	地域活動等の広報	高齢者等が参加し、話し合える機会を増やす。人とのつながりがストレスを軽減する。			
			良好な人間関係は精神的な支援をサポートする。			
			地域役員の担い手不足、広報・情報提供の問題	各々ができる範囲内で、それぞれの役割を荷負う事が必要、それには広報周知をまめに行い、協力者を掘り起こす手段を考える。		
			人材バンク的なものを整備できないか。	隣保班の中でも日頃からの挨拶、声掛けを行い、いい関係になればいいと思う。		
		地域行事への住民参加が少ない		隣、近所で助け合い仲良く生活が出来たらと思う。		
		活動等に対する住民の関心の低下		若い方たちを取り込み、地域活動等に於いてマンネリ化しない様改善を図る。		
		地域でのつながり	詐欺がある	詐欺の手口は社会の動向に合わせた手口が多い。不安を感じたら警察へ相談。また日常的に警察との連携を図っていく。		
			生活習慣病予防対策の実施。	元気で・健康で・楽しい毎を送れる事の大切さを再認識するため、健康に関する講座等を開発。		